

うちの近所 コレイチ

わが町 自慢紹介 05



「飲食店のディズニランドにしよう！」

花園ラグビー場の最寄駅である「東花園」のひとつ手前の「河内花園」。閉まっている店が大半の花園商店街の中に、ちょっとおしゃれな飲食店がポツポツと…。

花園商店街を「飲食店のディズニランドにしよう！」と立ち上がった元商店街会長の上山和博さん。「生まれ育った所だから活気ある街にしたい」という熱い思いで、ラグビー好きな仲間や、上山さんが経営している立ち飲み酒屋の仲間のつながりを生かして「和横丁」をつくりました。

商店街から一歩路地に入ると「別世界」。ミナミの法善寺横丁のような石畳が敷き詰めてある風情のある処です。この「和横丁」にあ



「HEIZO」は生ハムや魚介類のおつまみがおすすめ。みんなでいるんなメニューを注文すれば楽しさも倍増。TEL 072 (921) 1308

る店舗は4店ですが、もう1店建設中。横丁の突き当りにあるのが、今回取材させてもらった「スペインバル HEIZO」(バルとは昼間はお茶、夜はお酒を楽しむところ)。30年あまり空き家だった二軒長屋を改造して作った「HEIZO」は「和横丁」の仕掛け第一号の店舗です。

水曜日は女性客には飲み物(ビール、リキュール、ノンアルコールなど種類も豊富)全品半額。午後5時から7時までは、おつまみ3品と飲み物2杯で1000円とお得。お酒のあてのおつまみは、生ハムや魚介類がとておいしい！雰囲気もスペインの田舎町って感じですよ！

Culture Navi かるちャーナビ

た。学校に行く年齢になっても偏見や差別を避けて行けず、傷がいの身には職もなく母が薦めた洋裁を習いました」
そんな、安野さんの意識をかえたのは、1972年全国戦災被害者連絡会をたった一人で立ち上げた、杉山千佐子さんの呼びかけを新聞で見たことでした。軍人・軍属には戦後もなく援護がなされて、すでに50兆円支払われているのに民間の空襲被害者にはゼロ。戦後何ら援護策をとってこなかった日本政府を相手に、安野さんたちは謝罪と補償を求める集団訴訟を2008年12月8日大阪地裁に起こしました。



「大阪空襲訴訟を支える会」に多くの賛同を求める安野輝子さん。お問い合わせは072(271)6364まで

「残りの人生が決して長くない私たちにとって苦渋の選択」のこの訴訟。東京大空襲、大阪大空襲、重慶大爆撃3つの訴訟団は運動を交流しながらともに闘っています。

国に「差別なき戦後補償」を求める

平和の種まく人 05 九条の花を咲かせよう

あんの 安野 輝子さん(大阪空襲訴訟原告代表世話人)

太平洋戦争が終わる1ヶ月前の7月16日、6歳になったばかりの安野さんは、空襲警報が鳴ったので、弟たちと部屋の片隅でじっとしていた次の瞬間、米軍が投下した爆弾の破片が足に当たり、気がつくとも血の海のなか足は膝からちぎれていたそうです。「家も焼けてなくなったので、母は歩けない私を背負い、弟たちの手をひいて黒煙の下を逃げまどいまし

高度経済成長と新しい旅立ち

昭和30年代の東京を舞台にしたヒューマン・ドラマの「三丁目の夕日」シリーズの映画第3弾。今回は前作から数年が過ぎて、昭和39年の東京の一角で、東京オリンピックや新幹線開通に沸く三丁目の住民たちの姿を映し出します。日本中が高度経済成長と東京オリンピックに沸く中、東京・夕日町三丁目はいつものように住民たちが和気あいあいと暮らし活気にあふれていました。しかし、そうした中でも、一方で町内には転機を迎える人もいました。三丁目で育った子どもたちのそれぞれの旅立ちを描きます。

今回のストーリーの柱は、小説家の茶川(吉岡秀隆)とヒロミ(小雪)の間に子どもが生まれようとするもので、家族のように同居しながら中学

生になった淳之介は、茶川に隠れて小説家をめざしています。隣の自動車修理会社の鈴木オートでは、カーテレビが登場。長男の一平は、加山雄三に憧れてエレキギターをかき鳴らします。従業員的女性・六ちゃん青年医師に恋をしています。当時の世相や流行したギャグがたくさんでてきますが、いま中高年のあなたにだけわかるでしょうか。それもこの映画の楽しみのひとつです。

最近の映画はヒット作ではほとんど3D版が同時上映されていますが、この作品もそのひとつ。あえて3D版が必要かという作品に上乗せ料金を払ってまで、3D版を上映するのはどうかという声も聞こえてきます。

16mmフィルムがえいが



「ALWAYS 三丁目の夕日64」

鶏鳴に起きざれば日暮に悔いあり
楠木 正成

「早起きは三文の得」ということわざを身をもって実践した正成の言葉です。朝は暗いうちから起きて励めば一日を充実して過ごすことができます。怠けて過ごした日は、就寝時、一日の反省をすとき後悔することになります。昔と違ってライフスタイルも一変しましたが、なおのこと、高度情報社会が進めば進むほど、この生活訓をかみしめる必要があるでしょう。

いまも心に響く
名詩・名歌・名語録

私たちを燃料とすれば
お客様はウチワです
森繁 久弥 (俳優)

舞台経験豊富な名優・森繁久弥ならではの名言です。舞台上に立っている役者を熱演にかりたてるのは、観客の熱い反応にほかならなりません。観客の応援というウチワに煽られてこそ役者はエネルギーを燃焼させるのです。演劇とは、舞台の俳優と観客の呼吸がぴったりあったところで名演・名作が生まれてくるものです。